

印象派で「近代」を読む 光のモネから、ゴッホの闇へ
(NHK出版新書)



発売日: 2015年10月27日

出版: NHK出版

著者: 中野 京子

時代とともに、絵は変わる。
でも、“人間の心”は変わらない。

19世紀後半のフランスに起こった絵画運動で、現代日本でも絶大なる人気を誇る「印象派」。“光”を駆使したその斬新な描法によって映し出されたのは、貧富差が広がる近代の「矛盾」という“闇”でもあった。マネ・モネ・ドガからゴッホまで、美術の革命家たちが描いた“ほんとうのもの”とは。

* 電子版では、絵画の多くをカラー画像で収載しています。

* 著者の話題作『「怖い絵」で人間を読む』につづく ヴィジュアル新書 第2弾！

[内容]

- 第1章 新たな絵画の誕生
- 第2章 「自然」というアトリエ
- 第3章 エミール・ゾラをめぐる群像
- 第4章 キャンバスに映されたパリ
- 第5章 都市が抱えた闇
- 第6章 ブルジョワの生きかた
- 第7章 性と孤独のあわい
- 第8章 印象派を見る眼

<https://rapidgator.net/file/8c5ed9113585a20b9c12e1db66134c9b/ZI6IZ7UuW.pdf.rar.htm>

!